
THE TEAM!（番外編）～TEAM収入源の謎～

緒例

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

THE TEAM!（番外編）～TEAM収入源の謎～

【Zコード】

Z4920F

【作者名】

緒俐

【あらすじ】

「TEAMの収入ってどうなってる?」といつ翔の問いに、その実態が社員の智子から語られるのであった・・・

片岡翔はその日、ふと疑問に思つたことを快に尋ねた。

「なあ、TEAMって一体どうやって収入を得てるんだ?」

「任務だろ? まあ、それ以外での馬鹿親父が裏で何かしてゐる可能性もあるだろ?」

快は

「バスターのススメ」を読みながら答えた。

基本戦闘から高等魔法までが丁寧に記された分厚い本。

翔は見てはいるだけでも吐き気がするが、快にとつては楽勝である。

「お前な、これだけのでかい家で社員や俺達を養つてゐる社長が、どんな手段でここまで財力を築いたか興味ないのか?」「ないことはないさ!」

快は一日読書をやめる。

「俺だつて経営は興味あるし、やがてはここを継ぐつもりだし。ただな、あの親父がちゃんと仕事をしてゐるとは思えないんだよ。事実、副社長が出張に行つて帰つてこないことがざらだろ?」

言われてみればその通りだ。

義臣が動いたことは、収入とあまり関係ないときのみ。

掃除屋業なので多少、国からの援助と依頼もあるにはあるが、それだけでTEAMを養えるとは思えない。

「多分、こここの財力は副社長が頑張つて収入がありそつた任務を取

りに行つてるんだ。

それ以外考えられないし考えたくない

「

快は真剣に答えた。

だが、その答えを社員達、特に幹部級は知つてているのだ。

「快ちゃん、翔ちゃん、答えを教えてあげましょうか？」

「智子さん」

義臣の優秀な秘書、智子はやつて來た。

おそらく、彼女のサポートもこのTEAMを支える要因なんだろう。

う。

「知りたい！ どうしてなんですか？」

翔は目を輝かせて尋ねる。

快も智子の話だからこそ興味を示した。

「まず、基本的には任務ね。

快ちゃん達がやつてる表向きな任務以外にも仕事はあるわ。まつ、その内容までは話せないけど」

話せないほどの任務ならかなりの高額と読める。

「そして先代からの莫大な遺産。

快ちゃんが読んでる本も先代が記したものよ

「快は驚いた。確かに、

「バスターのススメ」はかなり普及されている。

科学、医学、物理方面まで出回つていいのだから・・・

「そして、何よりTEAMの収入の半分を占めているのは社長の運の良さー」

「うちの社員達が賭け事好きなのは知ってるでしょ？」

「ああ。だけどよ、いくら主催者が馬鹿親父でもそこまで儲からないだらう？」

快の言つとおりである。

先代の遺産の方がよっぽど収入がありそうだ。

「まあね、いつも食堂でやる賭じや無理ね。

だけど、世の中すべての賭に勝つ男はきっと社長だけよ」

ニッコリ微笑んで智子は去つていった。

翔は何となく掴みかねる答えに首を傾げるが、快はぞつとしていた。

「快、やつぱり俺にはよくわからねえな」

「ああ、分からぬ方がいい。

あの親父のことだ。いろんな手段を使って稼いでるに違いない。間違いなく犯罪の一つや二つはやつてるぜ」

そう言われて翔も気付くのである。

バスターとして最強の名を手にする義臣のこと。

誰にも気付かれずに賭に勝つ方法など心得ているに違いない・・・

そして、その実態は・・・

「智子、あまり快に心配させるような」といふなよ。

ただ、瞬間移動でラスベガスまで行つて稼いでるだけなんだし

よ

「その時点では犯罪です！ 例えバスターでも普通は飛行機で行くものですよ！」

「別に不法入国でもないぜ？」

ちゃんとパスポートとビザも持つて行つてるしな

「この前はルーレットを操つたと夢乃さんから聞きましたけど？」

「そう言われてギクリという表情を浮かべるあたり、まだ罪の意識はあるらしい。」

「まあ、社長のことですかからビニに球が入るかなんて計算出来てるのでしようけど、自分の思い通りにならないからとこつ理由で自分の力をフルに活用しないで下せ。」

夢乃さんからおしおきがあつますよー。」

ドンツと書類の束を義臣の前に置く。

「社長がこれをすべて片付けるまでも、ビニにも行かないことに夢乃さんから言われてます。」

それとこれもよろしくとのことです」

田の前に置かれたのは多額の請求書。

それは自分が不正を行つて稼いだ金額そのものだ。

「今回は影達が強力な包囲網を張つてますから逃げられませんよー。」

すべて自分の動きが読まれている。

さすがの逃走常習犯も諦めるしかなかつたのである……

そしてこの話にはさすがに隠された秘密がある。

「さて、義臣もさすがに懲りたかな」

「いやでも懲りますよ、夢乃様」

今宵のラスベガスで荒稼ぎしている眞のTEAM収入源の女神は、
月に一度のバカンスを楽しんでいた。

もちろん義臣のもとに届いた請求書はこの日のものである……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4920f/>

THE TEAM！（番外編）～TEAM収入源の謎～

2010年10月14日23時01分発行